

プランタン・モレトウス博物館展  
- ゲーテンベルグからプランタン・モレトウスへ -

国際印刷大学校 木下堯博

2005年4月22日、東京の印刷博物館でプランタン・モレトウス博物館展のオープニング内覧会とレセプションが開催された。

1440年頃、ゲーテンベルグによる印刷術の発明は約50年間のうちにヨーロッパ各地に拡がり、1458年strasブルグ、1465年バンベルグ、1465年ローマ、1470年パリ、1472年リヨンなどでヨーロッパ各地に256ヶ所の印刷所が作られ、印刷術の大量複製技術の便利さと従来の写本よりも安価であったため一層浸透していった。プランタン・モレトウス博物館の所在地・ベルギーのアントワープへは1481年ごろ伝播していった。

初代クリストファー・プランタンはパリからアントワープに移住し、1550年頃印刷業として将来性を確信し、1555年印刷・出版事業を創業した。

代表的な書籍に多言語対訳聖書などがあり、書籍の造本は美しく、品質が良く、国際的に信用度が高まっていった。

初代クリストファー・プランタン(1520年~1589年)から23代目のエドワード・モレタス(1865年~1876年)まで代々印刷・出版業を続け、特にクリストファー・プランタンは34年間の在職中、約2450種の書籍を出版し、新しい書体も製作した。クリストファー・プランタンはゲーテンベルグによる印刷術を一層開花させたものとして、この博物館の意義がある。

2001年9月、ユネスコは同館の記録文書を世界遺産(Memory of the World)として認めた。著者は1992年パリTPGのとき、ブラッセルのアルベール一世王立図書館内の印刷博物館とアントワープのプランタン・モレトウス博物館を訪問し、印刷情報誌

1992年8月号にそのレポートをまとめた。

万博・愛地球博の開催に合わせ東洋で初めてのプランタン・モレトウス博物館は2005年7月24日まで行なわれる。1999年のプランタン・モレトウス博物館と印刷博物館とのアグリーメントから約5年間の準備期間を要したもので同館の多様な資料と作品の他、VRシアターなどを含め3部構成になっていて、是非見学をお勧めしたい。

レセプションではプランタン・モレトウス博物館長のフランシーヌ・ド・ナーブ館長、凸版印刷㈱の足立直樹社長らが出席され、日本とベルギーの友好が深められた。

(印刷教育研究会会報 巻頭言、2005年4月25日記)